

平成 30 年度特別支援学校教職員等資質向上事業公開講座から

6月16日 講座6 聴覚障害を有する幼児児童生徒の特性理解

- ① 神戸女子大准教授下司実奈先生をお招きし、「聴覚障害を有する児童生徒のストレスを大人がどう認め支援していくか」についてご講演いただきました。  
参加者からは「子どもの動機づけとなる承認の仕方、考え方について具体的に学べたのがよかった。」と声が多数ありました。

6月22日 講座1 聴覚障害と早期支援

保健師・教育委員会・保育園・幼稚園・こども園の先生方にお集まりいただき、本校教員が本校の早期支援を中心とした概要を説明し、聴覚障害についての基礎的な説明をしました。その後、早期支援と聴能について教育オーディオロジーの専門家である同志社大学准教授・中瀬浩一先生からご講演をいただきました。

参加者の声

- ・授業や学校の設備の工夫を見ることができて、勉強になった。
- ・今回で2回目の参加。実際の相談の際にもこの場での学びが役立っている。
- ・早期発見、早期支援について学び、その大切さ、「先」を見通した支援の大切さがよくわかった。



7月26日 講座7 聴覚障害児童生徒に対する日本語文法指導

- ① 京都外国語大学 非常勤講師森美抄子先生をお招きし、「聴覚障害を有する児童生徒の語彙拡充のためのワークショップ」というテーマで講演をいただきました。

参加者の声

- ・ワークショップ形式で他校や他学部の先生方の意見やアイデアを聞くことができ、考えの幅が広がった。
- ・明日からの自立活動にすぐに活かせる具体的な内容を学べたのがよかった。

8月27日 講座2 聴覚障害の基礎知識

高等学校の養護教諭を対象として、聞こえにくいとはどういうことか、また、高校生という思春期にある聴覚障害生徒に対する適切な支援のあり方について、本校教員から説明をしました。また、現在困っておられることについてのご相談も受けました。

参加者の声

- ・聞こえのシュミレーションや聴力測定の部屋の見学などがとてもよかった。
- ・いままで想像していた以上に難聴生徒が困り感を抱えていることが実感としてわかった。学校のほかの職員にも伝えていきたい。

### 8月28日午前 講座3 聴覚障害における発音指導と言語指導

県下の難聴学級・聴覚特別支援学校・特別支援学校の先生方にお集まりいただき、発音指導・言語指導について分科会を持ち、本校の実践発表をしました。また、各校からのご相談に対して指導助言をさせていただきました。

情報保障に関しては手話通訳をお願いするとともに職員によるUDトークも活用しました。

#### 参加者の声

- ・小中高のひと流れの話を聞いて成長の様子や学校で教えておくべきことがよくわかった。
- ・言語指導などについて具体的な話が聞けてよかった



### 8月28日午後 講座4 聴覚障害教育と発達障害

筑波技術大学講師・大鹿綾先生をお招きし、「発達障害の基礎知識」（教員・一般向け）・「発達障害を有する聴覚障害幼児児童生徒の特性理解と支援」（教員・一般向け）の講演をしていただきました。

#### 参加者の声

- ・発達障害についての知識が整理できた。
- ・診断名でなく困り感で支援をすることの大切さや根本の聴覚障害への支援を丁寧にすべきであることがよくわかった。



### 9月21日 講座5 人工内耳装用児の言語発達

川崎医療福祉大学医療技術学部感覚矯正学科教授であり言語聴覚士でいらっしゃる福田章一郎先生から「人工内耳装用児の言語発達」という演題で講演をしていただきました。聴覚障害の子どもたちが苦手とすることや、彼らに必要とされることを、理論的に、また統計上からわかりやすく説明していただきました。

#### 参加者の声

- ・「人工内耳の目標」について、これまでの医療からの話に比べて、とても分かりやすく“限定”されたことで、その先を担うのは教育であるということが理解できた。
- ・地域の先生方にも、人工内耳をしている子どもたちはたいへんな苦勞・ストレスがあることがよく伝わったと思います。
- ・「人工内耳は日本語の音の弁別を獲得させるもの」「言語の獲得は学校でがんばらない」ということを聞き、改めて自分たちががんばらないといけないと強く思いました。